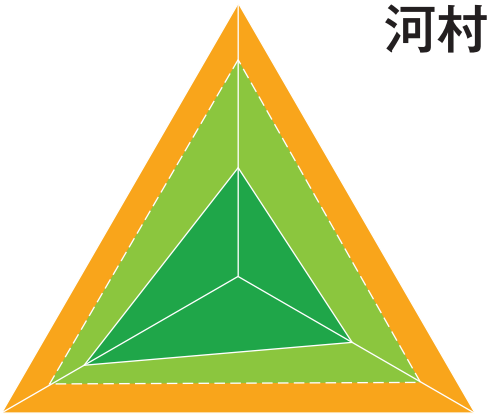
WEBQU
活用実践事例集

小学校版

河村茂雄［監修］



さくら社

はじめに

WEBQUが期待される背景
―教育目標と学校の現状の大きな乖離―

技術や産業の急激な変化，環境問題等，先が予測できない不確実性の高い現代社会では，変化する状況に，自律的に，多様な人々と協働して，問題解決できる能力·資質·能力（コンピテンシー）の育成が，とても重要になってきました。

同時に，学校現場では，子どもたちが他者と適切に関われず，同質的なグループや人間関係のなかでしか行動できない·異質な人々によるグループで課題解決することが苦手で回避する等が指摘され，それに対する教育の必要性が高まりました（文部科学省 , 2011）。

この流れが，「主体的·対話的で深い学び」を掲げた 2017 年改訂の学習指導要領の内容につながっていき，学校教育でも能力·資質·能力の育成として，グループでの協働活動や協働学習の取組みが推進されてきました。

しかし，事態はさらに悪化し，2023 年度，「無気力，不安」を主な要因とした不登校の小中学生数は 11 年連続の増加し，30 万人を大きく超えています。高校生も過去最高になっています。新型コロナの感染予防の自粛を経て学校でも対面の活動が復活しましたが，学級では対人関係がうまく取れない子どもたちも少なくないのです。

文部科学省は，仲間だけとの「会話」から多様な人々と主体的に協働できるように「対話」を活用した授業改善をすべし，と目標を掲げていますが，学校現場では「会話」ができる仲間もつくれない子どもが増えているのです。

つまり，筆者が強調したい教育現場の大きな問題は，文部科学省が掲げる教育目標と学校現場の子どもたちの実態に，大きな乖離が生じており，学級内でグループで協働活動·学習を設定しても，子どもたちは主体的に参加せずに活動が形骸化してしまうことが少なくないことです。このような実態の中で，現場の教師たちはどのように対応していけばいいのかと，混乱している面があるのです。

1　WEBQUの開発

2019 年に労働基準法が改正されて「働き方改革」が推進されました。しかし，労働時間を減らせと言われるが，仕事内容はなかなか減らせず，かつ，教職員が増員されるわけでもありません。対策としては，次の 2 点が重要です。

◎教職員が組織連携して，仕事の効率化をはかる

◎DX（デジタルトランスフォーメーション）·IT の活用により生産性を上げる

そこで，長年いじめや不登校などの対応に活用されてきた学級分析尺度 QU を，児童生徒が Web 上で質問に直接入力する形で答える CBT（Computer Based Testing：テストの全てをコンピュータ上で行うもの）の WEBQU を開発しました（河村，2020）。

2 WEBQUの活用の利点

◎入力し終えたら，”瞬時に” 分析されて，結果が出力される
⇒スピーディに対応ができる
すぐに校内研修会ができ教師たちが意欲的に取り組める

◎学級の一人ひとりの児童生徒の状態と学級集団の状態を，より向上させるために対応すべき指針が提供される
ナビゲーション機能を有する
⇒対応の指針が出されるので，教師たちが連携して組織で取り組める
⇒多くの説明機能があるので，活用しながら子どもへの対応の仕方や学級集団づくりの方法について学ぶことができる

◎ WEBQU のデータを，他の機関のデータ（横の連携），経年のデータ（縦の連携）と連携して活用することができる
⇒幅広い対策を立てて，他機関とも連携して取り組める

3 本書の特徴

本書は，WEBQU の機能や使用方法をオールラウンドに解説するものではありません。学校現場で教師たちが苦戦している問題，児童生徒の「不適応」や「不登校」「いじめ」「学習支援」,「学級集団づくり」や「授業の展開」,そして「教員組織」に関する具体的な問題に対して，WEBQU をどう活用して対処していくのか，そのプロセスを解説するものです。

児童生徒への対応の指針として，1 次的援助（全体活動に自ら参加できる・予防・開発的支援が大事）――2 次的援助（全体の中で個別配慮が必要で早期発見・早期対応が大事）――3 次的援助（問題を抱え個別に特別な対応が必要），以上の 3 段階があります。

WEBQU は，問題が起こってからの対応よりも，問題が起こらないような予防的対応や開発的な支援を重視していますので，具体的対応で取り上げるのは，生徒指導面―学習指導面―教員組織に分け，2 次的⇒ 1 次的⇒ 3 次的の順にします。

本書では，特定の事例を取り上げることになりますが，その対処で WEBQU の様々な機能を活用します。そのやり方や手順を理解できれば，他の事例にも必ず応用できると思います。

本書を活用して WEBQU が積極的に活用され，学校現場の多くの問題が改善されれば幸いです。

2025 年 5 月

早稲田大学 教授
河村茂雄

CONTENTS

WEBQU 活用実践事例集　小学校版

はじめに

- WEBQU が期待される背景 …… 2

WEBQU の概要

- WEBQU の目的と特徴・活用方法 …… 8
- WEBQU の定期的更新について …… 12
- まなびポケットとの関連 …… 14

第 1 章　生徒指導面の対応

1　不適応の問題

1. 不適応の可能性の高い児童を見つけよう …… 18
2. 学級集団の問題を見つけよう …… 24
3. 学級のソーシャルスキルタイプを見て対応を考えよう（高学年事例） …… 30
4. すぐに対応が必要な児童の発見と対応を考えよう …… 36
5. 児童のニーズや学級の実態を教師間で共有しよう …… 40
6. ソーシャルスキルを見て暴力等の問題行動への対応を考えよう …… 42

2 不登校の問題

❶ 不登校の可能性の高い児童の発見と対応……48
❷ 不登校の可能性の高い児童の傾向①（友人関係）……52
❸ 不登校の可能性の高い児童の傾向②（引っ込み思案の児童）……54
❹ 人間関係を見て対応を考えよう……58
❺ 休み始めた児童への対応を考えよう……60

3 いじめの問題

❶ いじめ被害の可能性の高い児童の発見と対応……64
❷ 友人関係にトラブルを抱える児童を見つけよう……68
❸ 被害を言えない児童の発見と対応を考えよう……70
❹ ネットいじめの可能性の高い児童を見つけよう……74

4 学級集団の問題

❶ 前回との比較やソーシャルスキルを見て対応を考えよう……78
❷ 前回との比較から対応を考えよう……80
❸ 不安定型の学級（低学年）への対応を考えよう……86
❹ トラブルが多いのに満足している児童に必要な対応を考えよう……90
❺ インクルーシブ型の学級を目指そう……92
❻ ヘルプサインをキャッチして対応を考えよう……96
❼ 児童のニーズや学級の実態を教師間で共有して対応しよう……100

第2章 学習指導面の対応

1 学習支援の問題

❶ 学力が気になる児童の傾向①（やる気 / 学習意欲）…… 104
❷ 学力が気になる児童の傾向②（クロス分析からの発見と対応）…… 110
❸ 学力は高いが学習意欲が低い児童への対応を考えよう…… 114
❹ 学力が気になる児童の傾向③（ソーシャルスキル）…… 116
❺ やる気が著しく低下している児童への対応を考えよう…… 118

2 学級集団の状態と授業展開の問題

❶「かたさ型」学級，「ゆるみ型」学級の特徴を捉えよう…… 122
❷「不安定型」の学級（低学年）の学習活動を工夫しよう…… 124
❸ 発表に不安のある児童が多い学級集団への対応を考えよう…… 126
❹ 教育的環境にない学級集団の理解と対応…… 128

第3章 教員組織面への対応

〈豆知識〉● ロール設定…… 132
❶ 管理職画面を組織対応に活用しよう…… 136
❷ 事例検討会を効率的にやろう…… 140
❸ 結果をもとに具体的な行動に移すポイント…… 146
❹ 学年連携・チームで活用するポイント…… 150
❺ 2回のデータの変化を組織対応に活かそう…… 154
❻ 返却帳票を活用しよう…… 156
〈豆知識〉● 学力クロス機能の活用方法について…… 158

COLUMN

現場での取組み

❶ WEBQU 導入の秘訣は教師の不安感・負担感を減少させること……46
❷ WEBQU を使ったいじめ・不登校予防の PDCA サイクルの活用……67
❸ WEBQU を活用した安心のある授業づくり……73
❹ 若手教師としての教育活動を支える WEBQU の学年組織での活用……85
❺ データを活用した「伴走型」のコンサルテーション……89
❻ 教科担任制や個人面談での WEBQU の活用法……99
❼ WEBQU を基盤とした組織的支援……102
❽ 教育相談コーディネーターとしての WEBQU の活用……109

視点

❶ ソーシャルスキルと非認知能力……45
❷ 不登校の背景――「無気力・不安」をかかえる児童たち……51
❸ インクルーシブとは？……95

活用のポイント

① WEBQU 結果を受け止めるのに苦慮している先生のサポートについて……148
② 従来の QU と異なる型に判定される理由……149
③ 自校結果一覧（管理職画面）の「学力クロス結果」で
学年全体の状況を把握……153

WEBQU 講師一覧……160

◎本書では，WEBQU の機能に関する知識を得ると同時に実践に活用していただけるよう，
各項を［機能］と［活用］に分けて掲載してあります。
◎本書中の WEBQU 画面ではアンケートの質問文をそのまま掲載することができないため，
抽象度を高めた表現としてあります。

WEBQUの概要

WEBQUの目的と特徴･活用方法

1 WEBQUの目的

WEBQU は，児童生徒一人ひとりの理解と対応方法，学級集団の状態と今後の学級集団づくりの方針を得ることを目的とした標準化された心理テストです。下記のアンケートから構成されています。

①「いごこちのよいクラスにするためのアンケート」（学級生活満足度尺度）
②「やる気のあるクラスを作るためのアンケート」（学級生活意欲尺度）
③「普段の行動を振り返るアンケート」（ソーシャルスキル尺度）
④「悩みアンケート」（中学校・高校のみ）
⑤「部活動アンケート」（中学校・高校のみ）

● WEBQU を構成する 3 つのアンケート

①「いごこちのよいクラスにするためのアンケート」では，児童生徒の学級に対する満足度を測定しています。満足度は，自分が周囲から認められているかという「承認得点」と，周囲からいじめ被害を受けていたり，孤立していたりしていないかという「被侵害得点」から判断します。承認感が低く，被侵害感が高い児童生徒は早急な支援が必要となります。支援が必要なのは誰かが明確になることで，早期対応が可能となります。さらに，クラス全員の回答から，学級集団全体が良好な方向に展開しているか，悪い方向に展開していないか，を確認することが可能です。学級がうまく機能しない状態になってしまう前に何らかの対応をとることが可能となります。

②「やる気のあるクラスを作るためのアンケート」では，学校生活における意欲（やる気）や充実感を領域ごとに見ることができます。小学校の場合は「友達関係」「学習意欲」「学級の雰囲気」の 3 領域，中学校・高校の場合は「友人との関係」「学習意欲」「教師との関係」「学級との関係」「進路意識」の 5 領域で示されます。やる気リストは，意欲・充実感のバランスを見るためのリストです。学校生活において児童生徒一人ひとりがどの領域に意欲を持っているのか，そのバランスなどを具体的に把握できます。

③「普段の行動を振り返るアンケート」では，児童生徒が学級生活を送る上で必要なソーシャルスキルを測定しています。具体的には，対人関係の基本的なルールやマナーに関する「配慮のスキル」と，人と関わるきっ

かけづくりや関係の維持に関する「関わりのスキル」で構成されています。小学校高学年以上は上記2種類のソーシャルスキルで捉えますが，小学校低学年では2つのスキルをあわせて1種類の「ソーシャルスキル」で捉えています。

WEBQUは児童生徒の発達段階を考慮した構成になっており，小学校低学年用（1～3年生），小学校高学年用（4～6年生），中学生用，高校生用の4種類があります。

中学生用，高校生用は④**「悩み」のアンケート（内容は「家庭」「健康」「情緒」など），⑤「部活動」**に関わるアンケートも含めて生徒の状態を把握することが可能です。

教師は日常的に児童生徒の行動を見る「観察法」，「面接法」によって児童生徒の状態を把握しています。ここにWEBQUという「調査法」を加えることで，より深く児童生徒の状態を理解でき，日常の指導行動や学級経営の指針に役立てることが可能になるのです。

2 WEBQUの代表的な活用方法

WEBQUの代表的な活用法は以下の4点になります。

❶いじめ被害を受けている児童生徒の早期発見と早期対応
❷不登校傾向の児童生徒への対応
❸学級崩壊の状態に至る兆候の把握と早期対応
❹教育実践の効果測定

❶いじめ被害を受けている児童生徒の早期発見と早期対応

WEBQUでは，いじめ被害を受けている可能性の高い児童生徒の早期発見と早期対応が可能です。具体的には，①からかいの有無，②暴力の有無，③不登校（学校に行きたくない気持ち）の有無，④孤立感の有無，⑤無視されている状況の有無，⑥SNS等のネット上でのいじめや無視の有無を把握することができます。教師が児童生徒の様子が何か変だなと感じ，直接話を聞いても，なかなか話したがらない児童生徒も多くいます。WEBQUでは，教師の面接や観察では見つけることが難しい，いじめの初期の兆候を発見し，いじめ被害が深刻化することを防ぐことが可能となります。

❷不登校傾向の児童生徒への対応

WEBQUでは，不登校（学校に行きたくない気持ちをもつ児童生徒）を発見できる指標が多くあります。「被侵害感」が高まっていないか，「友人関係」や「学習意欲」に大きな落ち込みはないか，友達と関わるための「ソーシャルスキル」を知らなかったり，発揮できていなかったりする状況がないかなどです。これらの指標を総合的に見ていくことで，配慮する必要性の高い児童生徒を早期に発見し，注意深く見守ったり，早期に対応したりすることが可能となります。

❸学級崩壊の状態に至る兆候の把握と早期対応

WEBQUでは，児童生徒一人ひとりの回答の分布をクラス全体として見ることで，学級集団が現在どのような状態にあるのかを把握することが可能です。学級集団は放ってお

けば自然とよい状態に展開するものではなく，学級の状態にあわせて教師が適切な指導行動をとり，児童生徒の建設的な相互作用が生じるような取り組みをすることで少しずつ良好な状態に向かっていきます。よって，まずは現在の学級集団の状態を把握し，学級集団がうまく機能しない状態に向かわないようにすること，少しでも学級集団が良好な状態に発達し，児童生徒の学習意欲や対人関係意欲などが喚起され，愛他性や協働性が高まるように支援することが重要なのです。加えてWEBQUでは，このような愛他性や協働性が高まった親和的な学級を，授業や学習が活性化する集団にするためのヒントがあります。つまり，穏やかで仲の良い「生徒指導面で安定している」学級を，児童生徒が主体的に学び合う「学習指導面で活性化する」学級に発展させることが可能なのです。

❹教育実践の効果測定

WEBQUは，各教師の年間の実践や，学年・学校全体で行っている教育実践の効果を評価・検討するために活用されています。教育実践の前後にWEBQUを実施し，その変化を見ることで，取り組みが児童生徒一人ひとりに，また学級や学年や学校全体に，どのような効果をもたらしたのかを確認するために積極的に活用されているのです。

3 WEBQUの特徴

●アンケート結果反映の即時性

WEBQUでは，アンケートの実施から，結果が反映されるまでの時間がとても短いことが特徴の一つです。教師が実態を把握するまでの時差が少なくなるため，その時の児童生徒の心情に寄り添い，即座に適切にアプローチすることが可能となります。

●学級状況と個人の状態との双方を同時に確認

WEBQUでは，児童生徒の回答から個々の「児童生徒の状態」と，学級全員の回答状況から「学級集団全体の状態」を把握することができます。つまり，個人の結果から，その児童生徒が学級の一員として活躍するための方策を思案できますし，学級の結果から，学級の児童生徒全員がより親和的で活発な状態になるために，また相互的な学びのある状態にするための方策を思案できます。

●「個人の強みと弱み」と「学級（クラス）の強みと弱み」を確認

WEBQUでは，児童生徒一人ひとりの「強み」と「弱み」が表示されます。見逃せない重要な項目をピックアップしていますので，これだけは気をつけようという対応の視点が明示されます。

観察や面接だけでは見えにくい児童生徒の内面を迅速かつ的確につかむことができるので，対応に多くの時間をかけることができます。さらに，学級（クラス）の「強み」と「弱み」も示されます。「強み」を学級のよいところとして，また「弱み」を今後強化する点として児童生徒にフィードバックすることも可能です。

●いじめ被害を受けている児童生徒を早期に発見

WEBQUには，「リスト機能」や「絞り込

み機能」がついており，「いじめ被害を受けている可能性のある児童生徒」や「やる気を出せずにいる児童生徒」「ソーシャルスキルが低く，友人とうまく関われない児童生徒」など，適応面でハイリスクの児童生徒を抽出することができます。

●生徒指導面に関するサポート

WEBQU では，学級の状態を「ルール」「リレーション」「安定度」「活性度」の４つの視点で示します。下図のように，矢印の下には具体的な対応方針に関するアドバイスが表示されます。

●学習指導面に関するサポート

WEBQU では，学級の実態把握を総合的に行った結果，アクティブラーニングに向けた具体的なアドバイスが示されます。児童生徒の学習がさらに活性化する学級集団にするためにはどのような取組みをすればよいか，対応の指針が表示されます。

●学校全体や学年全体の結果を確認

WEBQU では，学級ごとの結果を確認できる画面と，学校全体および学年全体の特徴を確認できる画面があります。

具体的には，学校全体および学年全体の①要支援群・いじめ・不登校などの可能性が高く注意すべき児童生徒の名前，②学級類型（親和型，かたさ型など）の出現率，③４群（学級生活満足群，非承認群など）の出現率などが明示されています。つまり，支援の必要な児童生徒や支援の必要な学級を把握できるようになっています。これにより，教師自身も一人で問題を抱え込まず，学校や学年全体のチームで児童生徒をサポートする体制づくりが可能になるのです。

